

一 京都大学文学部哲学科講義題目

昭和四十八年度

※二回生が履修できる専門科目

〔共〕大学と共通

〔院〕大学院のみ

哲学

|    |    |    |    |  |
|----|----|----|----|--|
| 講義 | 教授 | 野田 | 又夫 | ※哲学概論  |
| 研究 | 教授 | 野田 | 又夫 | 歴史哲学の諸問題   |
| ”  | 講師 | 杉原 | 丈夫 | 論理学の哲学   |
| ”  | 講師 | 梅原 | 猛  | 日本宗教学史(宗教学、仏教学、倫理学と共通)                               |
| ”  | 助手 | 木曾 | 好能 | 論理学  |
| 演習 | 教授 | 野田 | 又夫 | Hume: An Enquiry Concerning the Principles of Morals |
| ”  | 講師 | 井上 | 庄七 | Descartes: Meditationes de prima philosophia         |
| ”  | 講師 | 観山 | 雪陽 | Kant: Kritik der praktischen Vernunft (倫理学と共通)       |
| ”  | 教授 | 野田 | 又夫 | 哲学の諸問題   |

|       |      |    |    |                                  |
|-------|------|----|----|----------------------------------|
| 講義    | 教授   | 藤沢 | 令夫 | ※西洋古代哲学史概説                       |
| ”     | 教授   | 山田 | 晶  | ※西洋中世哲学史概説                       |
| ”     | 教授   | 辻村 | 公一 | ※西洋近世哲学史概説                       |
| 研究    | 教授   | 藤沢 | 令夫 | 哲学と文学                            |
| ”     | 教授   | 山田 | 晶  | 創造の問題                            |
| ”     | 教授   | 辻村 | 公一 | 自己と世界(倫理学と共通)                    |
| ”     | 教授   | 酒井 | 修  | ヘーゲル哲学の根本問題                      |
| ”     | 人文研究 | 山下 | 正男 | 中世の論理学                           |
| ”     | 講師   | 川崎 | 幸夫 | 中世の神秘思想                          |
| ”     | 講師   | 近藤 | 洋逸 | 近世科学思想史                          |
| 演習I   | 教授   | 藤沢 | 令夫 | Platon: Theaetetus               |
| 演習II  | 教授   | 藤沢 | 令夫 | Aristoteles: De Anima            |
| 演習III | 教授   | 藤沢 | 令夫 | Augustinus: Confessiones         |
| 演習I   | 教授   | 山田 | 晶  | Thomas Aquinas: Summa Theol. I   |
| 演習II  | 教授   | 山田 | 晶  | Thomas Aquinas: Summa Theol. I   |
| 演習III | 教授   | 山田 | 晶  | Thomas Aquinas: Summa Theol. I   |
| 演習I   | 教授   | 辻村 | 公一 | Kant: Kritik der reinen Vernunft |
| 演習    | 教授   | 上田 | 泰治 | Whitehead: Process and Reality   |



心理学

講義 教授 柿崎 祐一

助教授 本吉 良治

教育学部 梅本 堯夫

教育学部 河合 隼人

助教授 柿崎 祐一

研究 教授 中島 誠

助教授 吉田 民人

助教授 秋田 宗平

講師 清水御代明

講師 佐々木 蕉

講師 平野 俊二

助教授 柿崎 祐一

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

助教授 本吉 良治

※心理学概論I

※心理学概論II

教育心理学(教育学部と共通)

教育心理学(教育学部と共通)

臨床心理学(教育学部と共通)

「知覚的判断」と「社会的判断」

音声科学の研究(言語学と共通)

(社会学と共通)

感覚の心理・生理学

思考心理学

集団の圧力と規範

弁別行動の心理生理的研究

現代心理学の諸問題

※心理学基礎実験(実験甲)

心理学特殊実験(実験乙)

心理統計学

統計法実習

〔共〕

〔共〕

〔共〕

〔共〕

〔共〕

〔共〕

〔共〕

〔共〕

〔共〕

講義 助手 島 久洋

研究 教育学部 菅阪 良二

助教授 木下 富雄

助教授 木下 富雄

倫理学

講義 講師 岸畑 豊

研究 教授 辻村 公一

助教授 中 久郎

助教授 梅原 猛

助教授 内井 惣七

助教授 森口美都男

助教授 森口美都男

助教授 観山 雪陽

助教授 観山 雪陽

助教授 西谷 裕作

助教授 稲葉 稔

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

助教授 山本 誠作

フランス語文獻講読

映像論(教育学部と共通)

集団過程におよぼすエロソジカル・ファクターの影響

※西欧近世倫理思想史概説

自己と世界(西洋哲学史と共通)

行為と社会構造(社会学と共通)

古代日本の宗教(哲学、宗教学、仏教学と共通)

現代英米倫理学

J. Ortega Y Gasset: Man and Crisis VI, VII, VIII

倫理学の諸問題

I. Kant: Kritik der praktischen Vernunft (哲学と共通)

B. Pascal: Pensees

M. Buber: Ich und Du (宗教学と共通)

A. N. Whitehead: Adventures

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

〔院〕

哲学研究 第五百四十四号

of Ideas (宗教学と共通) [共]

美学美術史学

講義 教授 吉岡健二郎 ※美学概論

助教授 清水 善三 ※日本美術史概説(前年度の続き)

研究 教授 吉岡健二郎 比較芸術学の考察(前年度の続き)

助教授 清水 善三 平安彫刻史研究 [共]

助教授 乾 由明 ゴシック美術論 [共]

助教授 新田 博衛 絵画の存在様態 [共]

講師 上平 貢 イタリア彫刻史の課題 [共]

講師 武田 恒夫 屏風絵史論 [共]

講師 谷村 晃 音楽の構造と論理 [共]

演習Ⅰ 助教授 吉岡健二郎 美学美術史学の諸問題 [共]

演習Ⅱ 助教授 清水 善三 美術史学の現地指導 [共]

講読 教授 吉岡健二郎 M. Geiger, Beiträge zur Phäno-

menologie des ästhetischen Gen-

usses [共]

助教授 新田 博衛 R. G. Collingwood, The prin-

ciples of art [共]

社会学

講義 教授 池田 義祐 ※社会学概論 [共]

研究 教授 池田 義祐 社会学の根本問題 [共]

助教授 中 久郎 行為と社会構造(倫理学と共通) [共]

助教授 吉田 民人 社会現象への情報論理的接近 [共]

講師 神谷 国弘 地域社会の権力構造をめぐる諸問

題 [共]

講師 松本 通晴 村落の研究 [共]

講師 新 睦人 社会学説史の諸問題 [共]

教授 池田 義祐 社会学の理論と応用 [共]

助教授 中 久郎 P. L. Berger & T. Luckman: The

Social Construction of Reality [共]

講師 豊島 寛城 F. Tommies: Einführung in die

Soziologie [共]

演習 教授 池田 義祐 現代社会学の諸側面 [院]

助教授 中 久郎 社会構造論 [院]

助教授 作田 啓一 社会学方法論 [院]

社会学(文化人類学)

研究 東南ア 水野 浩一 文化人類学 [共]

〃 理学部 池田 次郎 人類学

教授 伊谷純一郎 (考古学・心理学と共通)

演習 助教授 米山 俊直 社会人類学 [共]

宗教学

講義 教授 武内 義範 ※宗教現象学 [共]

研究 教授 武内 義範 人倫と宗教

〃 助教授 上田 閑照 神秘主義の諸問題 [共]

〃 講師 脇本 平也 宗教の心理機構 [共]

〃 講師 梅原 猛 古代日本の宗教 [共]

演習 教授 武内 義範 フォイヒテ哲学の現代的意義 [共]

Hegel: Phänomenologie des Geistes [共]

講義 助教授 山本 誠作 Whitehead: The Adventures of Ideas (倫理学と共通) [共]

演習 講師 稲葉 稔 M. Buber: Ich und Du (倫理学と共通)

講義 講師 藪田 坦 Kant: Die Religion innerhalb der Grenzen der blossen Vernunft

仏教学

講義 教授 梶山 雄一 ※インド仏教思想史

研究 教授 梶山 雄一 『現觀莊嚴論』研究 [共]

〃 助教授 牧田 諦亮 中国仏教史(上代) [共]

〃 講師 梅原 猛 古代日本の宗教(宗教学、哲学、倫理学と共通) [共]

演習 教授 梶山 雄一 梵語仏典選集 [共]

〃 講師 立川 武蔵 Buddha-carita (前期)(印哲史、梵語学梵文学と共通) [共]

〃 講師 桜部 建 Abhidharmakoshasya Chap. V (後期) [共]

〃 人文研 助手 荒牧 典俊 Dasaññika-sūtra [共]

基督教学

講義 教授 武藤 一雄 ※基督教学序説

研究 教授 武藤 一雄 「救済史」観について [共]

〃 講師 平石 善司 キリシヤ教父の哲学思想 [共]

〃 講師 遠藤 彰 マルコ福音書の研究 [共]

〃 講師 Tucker Modern Literature and Christian Interpretation [共]

〃 講師 今井 晋 ルター研究序説 [共]

研究 講師 森田雄三郎 Bonhoeffer 研究 [共]

Paul Ricoeur: L'homme fallible (Philosophie de la Volonté, II)

Kierkegaard. Der Begriff Angst

〃 講師 野本 真也 古典ヘブル語文法及び旧約原典講  
 読(西南アジア史学と共通) [共]  
 〃 教授 武藤 一雄 基督教の諸問題 [院]

神谷 純一 デイルタイの世界観学について  
 八島 久男 ヘーゲル『イェーナ実在哲学』における「歴  
 史的時間」について、  
 西洋哲学史

二 京都大学文学部哲学科卒業論文題目

——昭和四十九年三月——

哲 学

小玉 知史 古代原子論の発展  
 酒井 潔 スピノザにおける精神の永遠性について  
 浜野 研三 デカルト哲学における「時間」の概念につい  
 て  
 藤田 千恵 デカルトと『情念論』  
 渡部 千明 第三の精神  
 井手 俊一 共同性の形態的展開  
 大塚 英夫 ハイデッガーの『有と時』における世界の問  
 題  
 大月 照夫 デカルト『方法序説』について  
 小池 政幸 ハイデッガーに於ける有の問と芸術について  
 田辺 勝義 デカルトの物体概念  
 藤田 義規 ヘーゲル論理学のチェック・ポイント  
 美濃 正 カントの「綜合」についての一考察

江花 弘章 体系の生成とその歴史性  
 ——ヘーゲル『精神現象学』にみる  
 近藤 真実子 Hegel 論理学  
 権八 哲明 ハイデッガーに於ける Dasein について  
 中山 善樹 ハイデッガーに於ける「時」の概念に関して  
 ——『有と時』の時期に於ける——  
 吉川 康夫 ニーチェに於ける 'Leben' について  
 稲川 洋 ヘーゲル『精神現象学』に於ける「理性」の  
 展開  
 沖 承二 青年ヘーゲルのキリスト教観  
 田口 順一 ベルグソンにおける笑いの社会的意義につい  
 て  
 西村 誠 ヘーゲル『精神の現象学』について  
 ——自我と存在との統一——  
 松田 直成 認識作用の主観性と認識内容の客観性につい  
 て  
 嶺 秀樹 カントの『純粹理性批判』における  
 超越論的真理の成立とその根拠について  
 萬 英治 『省察』における神の存在の証明とその問題

点

藤田元次 眠りと目覚め

向井純一 Merleau-Ponty における他者存在の問題

西恒太 カント『純粹理性批判』におけるフェノメノンとヌーメノンについて

武田信 ヘーゲル『法哲学』に於ける道徳性の問題

本多良郎 プラトンの想起説について

印度哲学史

頤宮勝 Saundarya Lahari に ついて

中国哲学史

川原秀城 公孫龍子

矢野義昭 「韓非子」について（人間観を中心として）

木下鉄矢 戴震

——孟子字義疏証と緒言について——

心理学

阿部元子 行動対比過程における消去の効果

伊藤猛史 印象形成過程の研究

太田明 Fixed-Interval Reinforcement Schedule における Operant 行動の分析

島田雅文 精神薄弱児の諸能力について

——一般通常児との比較考察——

中西義徳 日本語の文法についての心理学的一考察

林博信 小集団における同調に関する一考察

村田英枝 親子関係の一研究

——里親関係について——

村田誠 触知覚の実験的研究

吉田穂見 Field Dependence-Independence 概念について

近藤敬次 人間の記憶における高速走査

松沢哲郎 短時間呈示の形態の知覚における情報の処理について

宮崎渉 態度におよぼす情報の効果

宮崎守 S. D. 法による意味構造の研究

村上秀雄 Dichotic Listening における Order bias と Noise の効果——主として右耳効果について

木村昌幸 認知的斉合性における心理的合意についての一考察

倫理学

井野伸哉 マックス・ウェーバーの〈現実〉と〈人間〉

戸谷良二 R. M. ハアの Universal Prescriptivism

——道徳的判断の論理的 성격——

美学

伊東徹夫 宋代の青磁

美 学

——

——

——

——

井面信行 芸術の価値

——C・フイードラーの芸術論に沿って——

定金計次 Amatevati 彫刻の様式

百瀬 登 アンダーグラウンド・シネマについて

山西 享 『判断力批判』に於ける美的技術の合目的性について

河合直樹 原始美術

岸 文和 ルカーチ『美的反映論』における諸問題

吉原 忠雄 大道絵について（聖衆来迎寺本を中心に）

若杉 準治 東寺講堂の諸尊について

小林 春樹 M・メルロ・ポンティにおける身体図式とその芸術論について

十川 忍 ゾルガーの『エルヴィン』について

——美とイロニー——

植原 憲治 美的体験について

——美とイロニー——

——美とイロニー——

——美とイロニー——

社会学

篠原 新衛 ウェーバー社会学に於ける社会的行為とその関係構造

高橋 由典 ウェーバー宗教社会学についてのエートス論的一考察

西川 潔 現代家族論

西村 知史 遊びと社会

野村由紀子 産業社会学における人間関係についての一考

社会学

平野 信博 呪術論

藤沢 枝里 労働者の組合意識、企業意識

松尾 省一 悪魔のエチュード

岩田 茂 歴史主義と知識社会学

栗岡 幹英 マルクス社会理論形成過程の一考察

小松 秀雄 行為理論の検討

——ウェーバーとパーソンズを中心に——

——ウェーバーとパーソンズを中心に——

筒井 幸子 人類学者としてのマルセル・モース

平 英美 マックス・ヴェーバーにおける歴史認識と社会学について

伊藤 宜則 G. H. Mead

——G. H. Mead

宗教学

荒井 優 キルケゴールにおける実存と絶望

雲岡 章 知ることと感ずること

——『判断力批判』における感情の取り扱いをめぐって——

——『判断力批判』における感情の取り扱いをめぐって——

——『判断力批判』における感情の取り扱いをめぐって——

森村 孝和 パウル・ティリッヒにおける究極的関心の構造

吉田いく子 S・キルケゴールにおける不安と絶望の問題

西川 正浩 神話的意識に於ける時間の問題

——神話的意識に於ける時間の問題

——神話的意識に於ける時間の問題

——神話的意識に於ける時間の問題



嶋田義仁 ベルグソンの宗教論

いて

白石和則 『道徳形而上学原論』 についての一考

——『精神現象学』を中心にして——

察

和田俊昭 カント『純粹理性批判』に於ける純粹悟性概

倫理学

念もしくはカテゴリーについて

榎本百合子 ベルグソンにおける二つの社会

仏教学

鷺田清一 E・フッサールにおける世界の問題

金森文成 ブドガラ論について

長岡成夫 デイビッド・ヒュームの倫理思想  
——功利主義との関連において——

基督教学

中国哲学史

相原寛彰 愛と信仰について

池田秀三 西漢末思想の一考察  
——劉向と揚雄——

——ルカ伝を通して——

福井英孝 キルケゴール『哲学的断片』に於ける知識論

西洋哲学史

### 三 京都大学大学院文学研究科（哲学系）

修士課程修了論文題目

——昭和四十九年三月——

竹内亨 「死への有」に於ける「無の根本経験」  
——前期ハイデッガーへの一考察——

蒔苗暢夫 トマス・アクイナスにおける個物の認識

増田三彦 トマス・アクイナスにおける人間知性の認識  
について

哲学

矢野直 人間的真理に関するカントの思想

入江重吉 ヘーゲルの目的論

池田正平 初期ヘーゲルの道徳と人倫  
(その方法的検討)

牧野広義 ヘーゲルの矛盾論

亀山純生 フォイエルバッハの『人間の本質』について

野尻和生 ヘーゲル哲学における精神と行為の概念につ

公手考尚 ソクラテスにおける正義と法について  
永都軍三 アリストテレス自然学の対象と方法

吉田 昌市 知識——Platon: Meno, Phaedo, Respub.

Ica における——

宗 教 学

岡本 安晴

——「〇〇チャン……」と「わんわん」を中心  
として  
二過程モデル (Duo Process-model) と「  
ハッソー・パウワー」のモデル (Subproblem  
learning theory) との比較実験

国井 哲義 キルケゴールにおける生成の概念

岸田 容子

乳幼児の二つの刺激に対する選択行動

佐々木 亨 カント哲学における Mitte について

坂根 照文

切断脳における視覚情報伝達

仏 教 学

野路 典子 現勸莊嚴論の研究: Arga Yimu Kisena の

註釈を中心として

師井 悦子

仕事特性と仕事一体感あるいは組織一体感と  
の関係について

ついで

——特に輪廻の論証をめぐる——

社 会 学

基 督 教 学

竹原 創一 ルターにおける聖書解釈方法の問題

“Scriptura Sacra Sui Ipsius interpres”

について

上野 千鶴子

構造と認識

木村 洋二

パーソナリティ・システムとグループ・シス  
テムのファンクショナル・システム・モデル

筒井 清忠

ファシズム論序説

橋本 満

社会変動論

心 理 学

上野 留美子 乳幼児期における自己領域の確立と対人関係

の発達について

古賀 義弘

保守的に機能する社会意識の諸問題

小林 孝行

マージナル・マン理論の再検討

美学美術史学

- 愛宕 出 北方ロマネスクと初期ゴシックの建築
- 吉川 登 システィーナ礼拝堂天井画の分析
- 岡部由紀子 ロマン主義以後のドイツ絵画について

四 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和四十九年三月——

哲学

- 確井敏正 デカルトとマルブランシュ
- 小川 侃 左と右についての試論
- 小林道夫 カントにおける認識と感性の問題
- 中沢義和 ベルグソンの哲学
- 三村兼義 哲学的な問いの本性
- 平井邦男 決定論と自由

——ベルグソンとラッサセルの見解をめぐって——

中国哲学史

- 山口三夫 龔定盦に於ける経世の思想について

印度哲学史

- 竹中智泰 インド実在論学派の普遍論序説
- 武田耕道 カシュミール、シヴァ教の研究

西洋哲学史

- 尾関周二 ヘーゲル哲学と言語の問題
- 岡崎和子 アウグスティヌスの初期、中期著作における愛の思想
- 水田英実 トマスの神存在論証における「混雑した認識」
- 四日谷敬子 若きヘーゲルに於ける「生」
- 村上 一三 アウグスティヌスの三位一体論

宗教学

- 岩本光悦 根本悪からの大いなる快癒の可能性
- Hoffmann Yoel The relation between language and reality in the philosophical systems of Nagarjuna and Hegel

基督教学

- 早乙女礼子 ルターに於ける抵抗権の問題

心理学

- 北村依子 短期記憶における系列位置効果

哲学研究 第五百四十四号

成田朋子 認知行動の発達と言語機能

寺田ひろ子 ことばの獲得期における乳児の発達

小椋たみ子 心理治療における象徴過程の意義

—— 一方法論の展開 ——

社会学

中道 実 成層・移動・エリート

青木康容 権力の概念

美学美術史学

安藤邦洋 カントにおける美の意味

潮江宏三 十八世紀 Picturesque の風景画に於けるア  
レクサンダー・カズンズの意義

五十嵐節子 カール大帝の宮廷礼拝堂に関する一考察

三浦信一郎 「美的なもの」をめぐる自然と自由  
(シラーの「カリアス書簡」を中心として)

五 京都哲学会公開講演会記事

昭和五十六年度の京都哲学会公開講演会は、十月三十一日  
(土)午後一時から、京都大学文学部第七教室において、中久  
郎教授の司会により左記の如く行われた。

一、相互作用論からみたキャリア分析

京都大学助教授

宝月 誠氏

一、日本古典の哲学的研究

—— 古事記を中心として

京都市立芸術大学教授 梅原 猛氏

講演会は盛会であり、また、終了後、楽友会館において、宝  
月、梅原両氏を囲んで、約二十名の会員が晚餐を共にしつつ、  
討論、歓談のひとときをすごした。なお宝月氏の講演内容は、  
本号に収録されている。

次 号 論 文 予 告

随眠と帰属の理論(承前・完)……………山内得立

共同体論における共同性の問題……………中 久郎

「分割法」考案……………小池澄夫

—— プラトン後期対話篇への視点 ——

主観と自覚性……………酒井 潔

—— ライフニッツ形而上学の根本問題 ——